

「御霊の実② 喜び」

ピリピ 4:4

2015.09.27 Alex Tan

1

概観

人間の努力で得られる喜びは、長続きせず、私たちの状況によって変化する。聖書の「喜び」は、イエス様と出会うことと、御霊と共に歩むことを通して与えられる。

アウトライン

1. 救いが与えられた喜び
2. 救いを立ち会う喜び
3. 救い主と共にいる喜び
4. 適用

2

1. 救いが与えられた喜び

- 1) 罪の結果⇒神様の愛から断絶。恥と罪責感、失望と悲しみ(ローマ6:23)。しかし、イエス様を通して永遠の命が与えられる。
- 2) イエス様と出会い、身の汚れから解放され、救われる喜び。John Newton: Amazing Graceの作者。奴隷貿易からの罪責感。
- 3) サウロは教会を迫害していたが、のちに教会のために宣教師パウロとなった(ガラテヤ1:13)。パウロは罪からの解放をよく表現している(ローマ7:15、7:24-25)。

3

2. 救いを立ち会う喜び

- 1) この救いの喜びを分かち合うことにより、この「実」を育て、成長させる方法。福音を宣べ伝えることと、福音的に生活すること。
- 2) 一人の罪人が悔い改めると、天使たちに喜びが湧き起る(ルカ15:10)。ルカ15章は、失われた一匹の羊、失われた銀貨と放蕩息子のたとえで、救いの喜びを伝えている。
- 3) パウロとバルナバの宣教報告を聞いて、信者たちは大いに喜んでいた(使徒15:3)。

4

3. 救い主と共にいる喜び

- 1) 実が成熟してくると、伝道や奉仕からくる喜びより、主の臨在、主にある喜びに完成されていく。ぶどうの木にしっかりつながっている、確かな喜び(ヨハネ15:4)。
- 2) 永遠に神様につながる=永遠のものにあこがれる。人間は永遠のものに飢渴くように作られた(伝道者3:11)。
- 3) 神様に愛され、神様を愛する者になり、その姿と永遠のものを次世代に残していくことは、何よりの財産(I コリント13:13)。

5

4. 適用

- ① 自我に死に、従順になる(ヨハネ4:34)。御心を行なう喜び。それを妨げているのは、自分のこだわりとプライドの場合がある。
- ② 福音と御国の前進に仕える(ピリピ1:27)。福音のために宣教、祈り、献金など。福音にふさわしく生きる。
- ③ キリストだけで十分な生き方(ピリピ1:21)。主にあって喜ぶ生活を目指す。

6